福島放技ニュース
THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS
2023
11月24日 号
197 VOL.

発行所　公益社団法人　福島県診療放射線技師会　〒963-0201　郡山市大槻町字原ノ町3-1　TEL/FAX 024(954)7595
ホームページアドレス　http://fart.jp/

巻頭言

# 秋晴れの日

副会長　佐　藤　勝　正

公益社団法人福島県診療放射線技師会副会長に就任いたしました、福島県立医科大学附属病院の佐藤勝正と申します。これまで、県北協議会委員として池田委員長や委員の皆様のご指導のもと、会務に携わらせていただき、多くのことを学ばせていただきました。理事の経験もなく大変不安ではありますが、県北協議会での経験を活かし、副会長として会長を補佐し、会員の皆様の声をしっかりと汲み取り、福島県診療放射線技師会のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年の夏は今まで経験したことのない記録的な猛暑でした。私は四季の中で夏が好きでしたが、今年の暑さにはうんざりしました。過ごしやすい秋を心待ちにしていましたが、秋の期間を感じる間もなく、朝夕の冷え込みが身にしみる季節となってしまいました。

晴天に恵まれた10月22日に星総合病院で福島県診療放射線技師学術大会が開催されました。一般公開講演では、TVでおなじみの気象予報士の斎藤恭紀先生が講師をされて、今年の冬は夏の猛暑の原因となったエルニーニョ現象の影響が残ることにより、暖冬となる予想だそうです。しかしながら冬型の気圧配置が強まる時期や一時的に寒気が流れ込むことで、福島市で記録的な大雪となった2014年２月のような大雪が降る可能性があるそうです。講演を聞きながら、「４シーズン目のスタッドレスタイヤで大丈夫かな？もうじき13万キロの車のタイヤを買い替えるのはもったいないな～。車買っても納車に時間がかかるしな～。その前にお金ないな～。」と、スキーやスノボをやらない私としては、暖冬予想は当たっても斎藤先生の大雪予想が外れることを祈りました。

今回の学術大会では「診療放射線技師の現状と将来性～診療放射線技師の仕事はAIに奪われる？～」という、“身の危険”を感じるテーマのシンポジウムがありました。現役国会議員、日本放射線技師会副会長、臨床・教育現場と社会的立場の異なる４人の先生方のAI技術が臨床現場や教育、放射線技師の将来へ与える影響の様々な視点からのディスカッションは大変興味深いものでした。AI技術の発展によってもたらされる業務の効率化により放射線技師の雇用が減少するのではないかと心配されますが、そのなかで「AIはあくまでもツールであり、最終的な判断は人間が行う必要があるのではないか。」「AIは患者とのコミュニケーションを行うことができないため患者の不安や疑問に丁寧に答え、安心して検査や治療を受けられるようにサポートすることができる放射線技師の需要は今後も一定程度は維持されるのではないか。」などの意見が心に残りました。

現在進められている放射線技師の業務拡大は医師のタスクシフトのためだけでなく、人口減少が予想される超高齢化社会の中で、我々自身の価値を示す生き残りの手段という側面もあります。やはり告示研修を積極的に受けて新たなニーズに備えておくべきと個人的には考えます。AIを駆使した最適の医療を患者に提供できるように、スキルアップに努める必要性を感じました。研究発表の演題数が７題しかなかったのは寂しかったですが、有意義な秋晴れの１日になりました。

# 福島県立医科大学　保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科　五月女　康　作

会員の皆様、こんにちは。一昨年より赴任しております五月女と申します。今回は加藤学科長からのご指名を受け、この場をお借りして皆様に本学科の学生教育活動についてご報告させていただきます。

本学科３年生が、９月19－20日に授業（診療放射線科学特別演習Ⅰ）の一環で１泊２日の研修に行きました。大型バスをチャーターして初日は茨城県つくばみらい市にある研修センターに行きました。そこでは３年後期から卒業研究を始めるにあたり、教員たちが各研究室の紹介と研究内容のプレゼンを行い、学生たちはそれを聴講してどの研究室を選ぶか大いに悩み考えていました。そして夕食では学生と教員でBBQをして交流を深めました。感染症のため長期自粛してきた学生たちと教員たちにとって初めての交流会でした。現在（11月２日）、既に研究室配属を終え、各研究室ではゼミが始まり学生たちは初めての研究に懸命に取り組んでおります。研究活動を通じて研究だけでなく物事の考え方や段取り、そして人と接することの重要性と礼儀などを伝えて行きたいと考えております。

２日目は千葉県柏市にある医療機器メーカー（富士フイルムヘルスケア株式会社）の御協力のもと工場見学をさせていただきました。CTやMRIなどの医療機器を製造している様子を生で見させていただき、自分達が将来使う医療機器がどのように開発・製造されているかを目の当たりにしました。また、出荷のプロセスや企業理念、そして診療放射線技師として企業で活躍する先輩たちの講演を聴いたりと、学生たちだけでなく我々教員にとっても大変学びの多い１日でした。

これから臨床実習、就職活動、卒業研究発表、そして国家試験と多くのイベントを迎える１期生たちにとってとても学びの多い有意義な２日間でした。

## ～ 県会長＋JART地域理事　「オンレコ」～

### 1　「第３回執行部会及び第２回理事会」　９月14日

午後から執行部会を事務所で開催し、17時から理事会をハイブリッド開催しました。①令和５年度事業計画についての各委員会等の活動報告、②新入会会員11名についての入会の承認、③総会議案書のCD配布廃止については総会議案に、④各種イベント開催時に配布する技師会名入りボールペン購入が承認、⑤各種イベントや研究会等の後援継続を承認、その他、多くの議案を審議しました。

### 2　「JART学術大会熊本開催」　９月29日－10月１日

前日の28日より現地入りして式典予行演習等を行いました。今回は第２・３会場担当でしたが、割と緩めで会場内を自由に回る事が出来ました。初日夜は、県内会員と懇親会を開催してプチ理事会の様な意見を多数いただきました。熊本市は大きな街で、仙台と郡山の中間程度の大きさでしょうか。

### 3　「第３回東北会長会議」　10月５日

TCRTでのJART企画に関する会則・表彰規程について議論しました。また学術奨励賞の選出方法についても話し合いました。次期の東北地域代表については継続審議となりました。次回はTCRT2023前日に集合開催をします。

### 4　「JART第４回理事会」　10月７日

三重県鈴鹿市の鈴鹿医療科学大学での現地開催となりました。理事会の前には、令和４年度に亡くなられた会員に対して入魂式を行い理事・関係

者が献花を行いました。①第１回日本放射線医療技術学術大会について、②豪雨災害での会費免除、③学生向け告示研修について、④講習会・認定試験の会員無料化についてや、多々の議案を議論しました。

### ５　「県学術大会でのJART共催」　10月22日

JARTとのレントゲン週間イベントに申請して共催にしました。JART名前入りマスキングテープ220個が届いたので配布しました。次回はJART名前入りボールペンの方が良いかご意見をお願いします。会場隅では静脈穿刺練習キットも展示しました。要望があれば来年度予算で購入を検討したいと思います。

## 研修会報告

### 「令和５年度福島県診療放射線技師学術大会」を終えて

学術委員長　松井　大樹

会員の皆様におきましては、ご多忙中にもかかわらずご参加いただきまして心より感謝申し上げます。

会員の皆様の熱心なご発表や有意義な討論は、本大会を有意義なものにしていただきました。さらなる知識と技術の向上に寄与し、地域医療の発展に貢献する一歩となりましたこと、心より嬉しく思います。この場を借りて、大会運営にご尽力いただいた関係者の皆様、およびご支援を賜りました全ての皆様に心から感謝申し上げます。今後も地域医療の向上と発展に努め、皆様と共に歩んでいけることを心より願っております。

至らぬ点も多々あったことと思いますが、反省し、来年度に繋げるべく精進して参ります。重ねて、ご参加いただきましたことに感謝申し上げ、会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### 「第108回会津画像研究会」開催

会津地区　高畑　賢也

令和５年９月21日㈭に、オンラインにて開催され、会津地区内外合わせて29名の参加者がありました。

演題１はメーカーからの情報提供として、キヤノンメディカルシステムズ株式会社様より「“超解像”ディープラーニング技術の登場～PIQE～」と題し、CTとMRそれぞれにおいて機能の有用性を活かして正確な形態情報の取得と機能評価の発展へと期待出来るさまざまな画像の提示と技術の紹介がありました。

演題２は、フレッシャーズセミナー「CT検査～造影検査のベースになる話～」として、会津医療センター吉田賢氏より、造影効果は造影剤が広がる分布容積（患者の体格）や、体内に投与する造影剤の量や濃度によって左右されること。造影剤の注入は出来れば右肘静脈を用いて注入すること（左肘静脈から投与した場合では、心腔に到達するまでの距離が長く、様々な問題が生じる可能性があるから）。また、造影剤注入パラメータの違いによるそれぞれの造影効果について時間曲線（TEC）を用いてわかりやすく説明があり、体重・時間当たりのヨード量を揃えることが重要であるとのことでした。

また、今回分は前編ということで、次回の後編への期待が高まったところで研究会は終了しました。

## 叙勲受章祝賀会開催

令和５年、春の叙勲において県南地区会員の菅野　和之様（元福島県診療放射線技師会　常任理

事）が瑞宝単光章を受章されました。

その祝賀会が、令和５年10月29日に郡山ビューホテルアネックスにおいて開催されました。

会長はじめ診療放射線技師会理事や事務局の皆様、県南地区協議会の委員の皆様等が集まり、和気藹々と楽しく会が行われました。

長年の功績が認められた結果であり、同じ技師として誇らしく思いました。菅野様に続けるよう私自身も社会貢献に尽くしていかなければと強く感じました。

菅野夫妻（中央）、本多正知先生はじめ旧本多記念の職員の皆様、現職場のてちがわら内科理事長の鉄地河原正顕先生、会長はじめ福島県診療放射線技師会の皆様との記念撮影。

（鍵谷）

# 地区だより

## 会津地区

### 「第36回健康祭り」開催

10月29日㈰に第36回健康祭りが会津文化センターで行われました。あいにくの雨模様に加えコロナやインフルエンザが多い中で、例年に比べれば少ない来場者でしたが、アンケートでは、「良かった」との声がほとんどだったそうです。

会津地区協議会としまして、放射線に関するパネルを展示し、市民の皆様に少しですが診療放射線技師の仕事に興味を持っていただけたと思います。

次回の開催では今年以上の来場者に期待しています。

（白岩）

## 浜通地区

### 「市民フォーラム／救急医療・いわき2023」開催

令和５年９月16日【多様化する災害と対応】と題し市民フォーラム／救急医療・いわき2023が開催されました。国立病院機構本部DMAT事務局・福島復興支援室室長補佐、小早川義貴先生による特別講演といわき市消防本部による心肺蘇生・AEDの実技指導がありました。９月８日の台風13号の影響による大雨災害に見舞われた直後の開催ということもあり、とても感慨深い会となりました。

（名城）

## 県　南　地　区

### 「ピンクリボン in 郡山 2023」開催

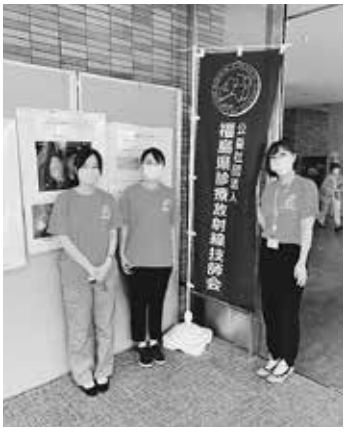
令和５年10月５日「ピンクリボン in 郡山 2023」が（公財）星総合病院　メグレズホールにて開催されました。

参加会員は、星総合病院から３名、たむら市民病院から１名の計４名。

当日のイベント内容として、乳がん検診及びマンモグラフィに関するパネル展示を行い、会場入り口にパネルを掲示し、乳がん検診受診喚起と検査内容の周知・啓発に努めました。

また、乳がん検査機器見学ツアーが行われ星総合病院マンモグラフィ撮影室、ABVS（Automated Breast Volume Scanner）、乳腺外科診察室・乳腺エコー室を巡回し、それぞれの検査の役割、長所、短所の解説を行いました。

今回は３年ぶりの対面を含むハイブリッド方式での開催となりました。コロナも感染症法上の分類は引き下げられたとはいえ、福島県内のコロナ感染者数の高止まり報道もあり、十分な注意の下、来場者にはマスク着用と手指消毒の協力を得ながらの運営となりました。



パネル展示前にて
左から芳賀・加藤・黒岩堂

参加者はご年配の方が多い印象を受けましたが、中にはご夫婦でいらっしゃった方もおり、男性の参加者がこれまでより多い印象をもちました。多くの男性の意識が変化し、家族の方々に対する乳がん検診の受診勧奨に繋がれば良いな、と感じました。

特別講演では、『乳がん検診とブレストアウェアネス』と題し、JCHO久留米総合病院 院長 田中眞紀先生のお話を聴講しました。先生は10年前の50代後半に乳がんに罹患された病歴をお持ちです。医師としての目線と患者としての体験を交えた興味深いお話は、軽妙な語り口であっという間の一時間でした。

タイトルにある『ブレストアウェアネス』は初めて耳にした言葉でした。この言葉の意味は、「乳房を意識する生活習慣」とのことです。セルフチェックなどの自己触診という行動を含む意識の持ちようを表す概念のようです。

終わりに、『乳がんの罹患率が増えはじめる30歳代からは、日頃から自分の乳房の状態に関心を持ち、乳房の変化を感じたら、速やかに医師に相談することが大切です。』

（たむら市民病院　白石嘉博）

**【訃報のお知らせ】**

県南地区会員の「元太田西ノ内病院　技師長の藤田悠治様」が11月７日に逝去されました。
心よりご冥福をお祈りいたします。

## 編　集　後　記

今年も早いもので、もう残り一か月と少しになりました。周りではコロナに替わりインフルエンザが流行していて、子供の学校では学級閉鎖や学年閉鎖になったと耳にします。基本的な感染対策を心掛けて、忙しくなる歳の瀬を乗り越えていきましょう。

（高畑）